第２章

国内拠点：グローバルディスカッション

湯　浅　郁　也

（１）概要

今年度、本校が、名古屋大学と連携して夏季休暇を利用して８月に名古屋大学で行ったイベントである。大阪教育大学附属高等学校平野校舎、海陽中等教育学校、神戸大学附属中等教育学校、東京学芸大学附属高等学校、東京学芸大学附属国際中等教育学校が参加した。

「社会のグローバル化が進む中、日本国内でも中等・高等教育の急激な国際化が求められている。」将来、高校と大学が連携して行うことができる国際的な人材育成教育（高校３年+大学４年）である。名古屋大学のＧ30国際プログラム郡に参加している留学生11名を議論のリード役とし、すべての議論が英語で行われた。テーマは「将来、自分たちに必要とされるグローバル人材としての能力」についてである。

（２）目的

仮説検証型課題研究「課題探究Ⅱ」での探究と、「協同的探究学習」で身につけた国際的素養を国内のグローバル拠点で活用し、勇気と判断力を身につける。また、課題研究の内容に繋がるテーマについて、世界各国からの留学生や多くのSGH校の生徒との討論を通して、SGH校の生徒同士が切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら成長することを目的とする。プロジェクト は英語を基本として行われるが､スキルとしての英語力向上ではなく、英語を通して論理的に他者に表現し、コミュニケーションをとる能力の向上を目指す。

（３）内容

名古屋大学内に国内グローバル拠点を置き、「地球的課題」に関して、大学教員や留学生TAと一緒に解決法を考えるプロジェクト（Global Discussion）を開催する。Global Discussionは、本校以外にも多くのSGH校の参加を呼び掛け、「地球的課題」について、インターネットや図書館機能などICTを駆使して、他校の生徒と共に解決法を提案し、プレゼンテーションを行う。発表内容に応じて表彰もする。また､大学教員による小講義やフィードバックなども随時交えながら次世代のグローバル・リーダーをSGH校同士の連携の中で育成する。

基本的な枠組みは名古屋大学の教員と高校の教員で事前に相談し、設定した。それを踏まえ、名古屋大学のＧ30国際プログラム群に参加している留学生TA11名を議論のリード役のために雇用し、具体的なイベントの企画や高校生とのディスカッションを中心とした、グループ運営を任せた。当日のプログラムは以下の通りである。

タイムテーブル：

１日目　８月24日（月）
- ９：30　受付開始
- 10：00　ウォームアップ　グループ活動
- 11：00　グループディスカッションの実施方法説明
ディスカッショントピック提起
- 12：00　（昼食）
- 13：30　ディスカッションⅠ
- 15：00　小講義　経済のグローバル化
（市場の国際化と経済統合の現状）
- 17：30　SGH生徒交流会

２日目　８月25日（火）
- ９：00　小講義「必要とされるグローバル人材の素養」
ディスカッションⅢ
- 11：30　（昼食）
- 13：00　各グループによる発表
- 15：30　振り返り/大学教員によるコメント
- 16：00　解散

（４）一日目の様子

留学生TAの代表によるwarm-upの説明

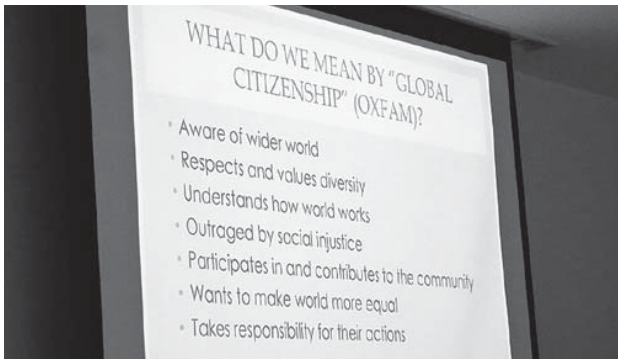
Warm-upの様子

英語でのグルーディスカッションの様子

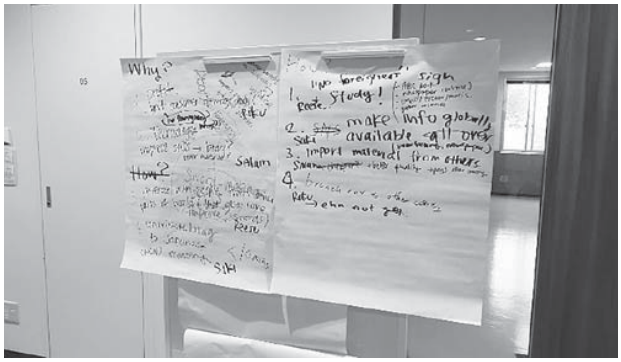
NHKの取材を受ける参加生徒

NHK名古屋　HPより

（5）二日目の様子



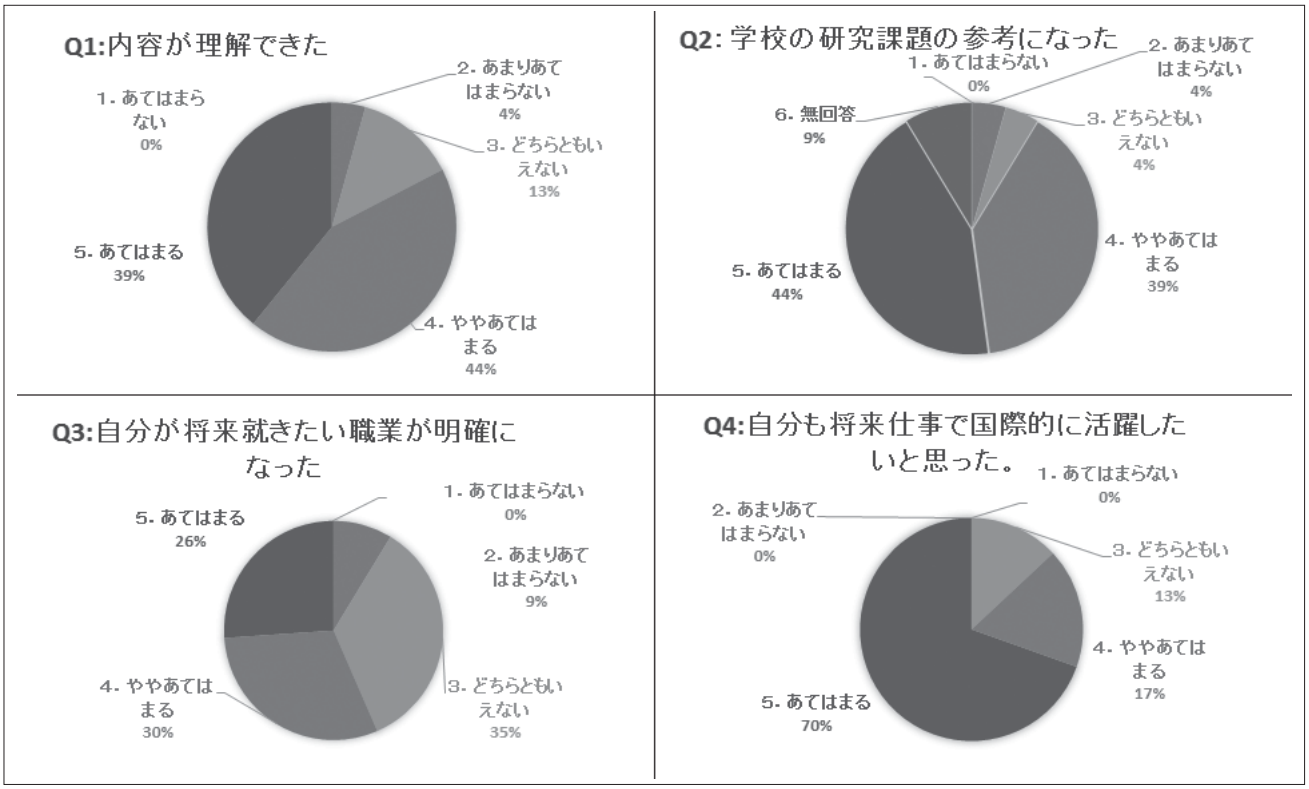
小講義「必要とされるグローバル人材の素養」
Mathew Linley（国際教育交流本部・教授）



グループ発表用のブレーンストーミングメモ

生徒の発表を聞く講師とTA

（6）アンケート結果



※Global Discussion 2015 振り返り生徒アンケートの結果（５件法）

（7）参加高校生の感想

以下は参加した生徒の感想である。

・今までよりも英語を勉強したい、しなければならないと思いました。その先のことを意識し、できることを継続していきたいと思いました。留学や海外への興味も広がり、たくさんの仲間、先生方に会えて良かったです。

・普段の学校での英語のディスカッションとは違う経験ができて良かった。学校の方では周りのレベルがすごく高いので、それに甘えてしまうことが多いが、今回がゼロから自分達で作り上げることができた。

・自分と同じような環境（SGH校）で学習している生徒と一緒に考え意見を言い合うのが充実し、楽しかった.今回のGlobal　Discussion　に参加し、自分の無知であることに気が付いた。

・チームワークについて、まだまだ学ぶべきことがあるなって思いました。グループの一員である時、どう周りと関わり、一つのまとまったアイディアを導くのは、改めて難しいことだと感じました。

・自分の英語能力に低さに痛感した。２日間というのは、グループが馴染んできてよりよいディスカッション、プレゼンテーションができたのでとても良かった。

・おもしろくないと感じるものは、それがおもしろくないからでなく、自分が興味を示さないことに原因があり、「勉強」（study）というふうにとらえるのではなく、自分の住んでいる世界のことを少し「学ぶ」（learn）ことが大切だとおもいました。

・学校という身近な場所でこういう機会をもらえてよかった。すべて英語でのDiscussion やプレゼンテーションを体験できてよかった。英語でも盛り上がることができて、楽しくイベントの参加できた。

※Global Discussion 2015 振り返り
生徒アンケートの結果抜粋（記述式）

・「グローバルはお互いを知り理解し合うことだと思う」

・「ずっと集中していないと、相手の言うことが理解できないので大変でしたが、自分の考えを伝えられて良かったです」

平成27年８月25日　NHK名古屋　HPより一部抜粋

・「世界を目指して頑張っている仲間を増やし、お互いに刺激し合えれば」

平成27年８月25日　中日新聞記事
「世界に必要な能力は」より一部抜粋

（文責　湯浅郁也）